



片山かおるの ちょっとカエル通信



おとな子どももいっしょに育つ町にしよう

小金井市議会議員



3/26

市議会議員
選挙

住民参加型の福祉の町へ

～公民館本館を含む新福祉会館づくりで実現しよう！

3月9日に議会が終了。課題を積み残したまま、一般会計予算が可決されました。新庁舎と新福祉会館の建設を早急に進めるための基本設計の予算がないこと、強風被害が予想される高層ビルが建ち並び、駅前一極集中を助長する武蔵小金井第2地区再開発予算が入っていることから反対しました。基本設計費を入れた修正案には賛成しましたが、残念ながら否決されました。新福祉会館建設の市民検討委員会には、公民館関係者の参加枠がありません。

ん。本町分館に仮移設中の公民館本館をこれからどうするのか、市の方針は示されませんでした。このままでは、これまでのような本館機能を果たせず、公民館全体の社会教育の機能が衰退していきます。

住民参加型の福祉のまちづくりを進めるためにも、市民への説明や参加も含め、公民館本館を含む新福祉会館建設と、新庁舎建設のスピードアップを要望しました。

議会は一枚岩ではなく、賛否が拮抗し

ても議論が深まることに、議会の存在意義があります。



2017年度

一般会計予算の議決結果 **可決**

賛成：自民 5、公明 4、民進 2、リベラル保守 2、生活者ネット 2、小金井自由民主 1 計 16

反対：緑・市民自治こがねい(片山、坂井) 2、共産 4、こがねい市民会議 1 計 7

片山かおるの一般質問 (2/7)



1 子どもの権利条例を 市民参加で広めよう

市民発案でできた、子育て支援冊子「のびのびこがねいっ子」の改訂を市民と市が協働して進めることにより、市民力の向上が期待できたのですが、今回は官民協働事業と銘打ち、広告会社にほぼ丸投げで、印刷費やデザインなどを賄うとのこと。経済的には助かって市民力アップにはつながりません。市民活動団体を詳しく掲載する、子どもの権利条例を掲載することを求めましたが、検討する、という程度の答弁でした。子どもの権利条例は、市の基本条例です。もっと市民に広げていく努力が市には必要です。

2 生活保護への差別、 偏見をなくそう

小金井のケースワーカーの数が少なすぎます。本来はひとりが80人程度を担当するはずが、現在はひとりで130人を担当。権限も多過ぎます。人員を増やし、権限を分散するなど、差別偏見をなくすためには体制の強化が必要です。

3 福祉会館を利用していた 市民の居場所はどうなっている

福祉機器を紹介、貸出する、ふれあいセンターを運営していたボランティアの状況を把握し、情報共有するという答弁あり。これまで福祉会館や公民館本館を利用していた市民の状況も、利用者懇談会などで把握することのこと。

意見書を提出しました



可決!!

福島原発事故から7年目。 事故の収束はまだ遠い

「原発事故区域外避難者への住宅支援の継続を求める意見書」を提案し、公明党の退席以外は全員賛成で可決されました。「避難の協同センター」が設立され、都内外の超党派の地方議員が避難者をサポートしています。政府交渉や都交渉を重ねていますが、避難者の住宅支援はこの3月で打ち切られます。政府は現実を直視し、帰還政策ではなく避難者の支援を継続し、原発再稼働ではなく事故の収束に力を注ぐべきです。



「片山かおる & 矢島助産院の矢島床子さんと語りあおう！」 2/26@カエルハウスの報告



矢島さんに会うために、去年産んだ人から30年近く前に産んだ人、5000人目の赤ちゃんのおばあちゃんまで集まりました。だれかに産ませてもらうのではなく、自分の力で自分らしいお産をすることで、自信が生まれ、子どもに向き合うことができます。お産を語りあうことは、なんと豊かな時間なのでしょうか。私たちにはこういう場がたびたび必要なのです。8年前に語ってもらった矢島さんの描く、パースセンターやお産の町構想から、今のお産の状況は良くなっているでしょうか。管理されたお産。自然に産む力が弱められています。私たちは、

どんなお産や医療連携、子育て環境を望むのか。助産院と共に求め、つくりあげていきたいと思っています。福島原発事故後、統計などは出ていませんが、出産時に気になる事象のある子どもが増えているといいます。助産師という命を産む現場から発信しなくてはならない問題である、と語ってくれました。

応援します!

こぐれみわぞう (音楽家) 上原公子 (元国立市長)
 山田真 (小児科医) 鎌仲ひとみ (映画監督)
 大熊ワタル (音楽家) 矢島床子 (母子のサロン 矢島助産院 助産婦)
 黒坂圭太 (武蔵野美術大学教授) 満田夏花 (環境団体理事)
 瀬瀬あや (映画監督) イトー・タリー (パフォーマンス・アーティスト)
 井筒高雄 (元自衛隊レンジャー) 吉岡淳 (カフェスロー代表)

片山かおるの 小金井まちづくりプラン 2017



1 「市民参加」を 市政のだ真ん中に

- ★対決型から提案型議会へ。
- ★市民が主体の市政を「自治基本条例」で実現
- ★公正で男女平等な労働環境をつくる「公契約条例」を



住民参加型の福祉の町へ

公民館本館を含む新福祉会館づくりで実現しよう!
 新庁舎建設は早く安く環境配慮と市民参加で

2 子どもの権利条例を 活かそう!

- ★「子どもの貧困対策条例」の制定を
- ★差別なく、だれもがいっしょに学べる「みんなの学校」を
- ★制服や給食の保護者負担を削減し、義務教育の無償化を
- ★子どもに居心地のよい小規模異年齢保育を
- ★子ども食堂や生活困窮者を支援するフードバンクを
- ★家で産み家で看取る地域医療と子育て支援に助産院の力を



障がいがあってもなくても共に暮らせる町に

3 人がつながりにぎわいのある 格差のない町に

- ★大規模再開発より、個人商店を大事に
- ★市民の居場所となる図書館本館計画を市民参加で
- ★空き家や空きアパートを活用して、安い賃貸住宅を
- ★高齢者や障がい者、子どもの居場所となる寄り合い所を市内各所に
- ★市民と市が協力した市民映画館をつくり、小金井を映画の町へ

原発のない 平和な未来を 選びとろう!



4 平和な世界づくりを 発信!

- ★憲法カフェを公民館で開催。平和憲法を学び直す
- ★市民主体の「小金井平和の日」と「中東和平プロジェクト」を
- ★「日の丸・君が代」の強制をなくし平和教育の充実を



野川とはげをこわす道路はいらない!

5 脱原発、地球温暖化防止の 先進都市へ GO!

- ★原発事故避難者を地域から支援
- ★旧「雨デモ風デモハウス」から環境先進都市を発信
- ★地産地消のカフェを併設した資源化施設を

片山かおるプロフィール

1966年、長崎県生まれ杉並育ち。都立豊多摩高校卒業。高3・大3の男の子とパートナー、猫と共に前原町在住。2009年より市議会議員、現在2期目。いかそう!子どもの権利条例の会、武蔵野はらっぱ祭り実行委員会、「原発事故子ども・被災者支援法」推進自治体議員連盟など、小金井と全国の仲間と共に活動中。

◇片山かおる 連絡先◇

小金井市中町 4-17-11 tel:042-316-1511

<http://katayamakaoru.net> office@katayamakaoru.net
 ツイッター、フェイスブックは「片山かおる」で検索